

第1節

まちづくりの主役である

「ひとづくり」

子育て

教育

スポーツ・文化

男女共同参画・平和・人権

(1) 子育て ～子どもの成長を育むまち～

ア 一人ひとりの育ちを大切に環境づくり

施策の概要

子どもたちの健やかな成長、発達を支援する環境づくり、放課後の子どもの居場所づくりに取り組みました。

施策の成果

こども発達支援センターは、引き続き保育所・保護者・保健師などとの連携に努め、発達に課題のある子どもたちの早期支援体制の充実を図りました。

また、放課後の居場所づくりを通じて、子どもたちの安全・安心が確保され、地域住民との交流も図られました。

事務事業の実施状況

■ こども発達支援センター運営事業（子育て支援部）

健診などで発達面に心配のある乳幼児を早期に発見し、発達に関する相談（運動・言語・心理など）や親子通所教室での支援が受けられる施設として、こども発達支援センター「すまいる」を開設しています。日常生活への適応などについて、早期の支援を行う通所教室では、楽しい遊びを取り入れ、小集団の中で心身の発達を促すとともに、保護者が子どもへの理解と認識を深め、子育ての不安を軽減できるように支援を行いました。令和3年10月には地域子育て支援センター「すまいる」を開設し、「あそびの場の提供」「子育て相談」「子育て講座」などを行いました。

また、保育の中での発達支援の充実をめざし、専門講師による保育所などの巡回相談や保育所と協働し一体的支援体制を構築する取組として「保育所発達支援モデル事業」を行いました。さらに、保育士・保健師などの専門職を対象にした研修会を開催し、児童や保護者への適切な対応などについて理解を深めスキルアップを図りました。

■ 放課後子ども教室事業（教育委員会）

小学校1年生から6年生までの児童を対象として、放課後や春、夏、冬休みなどの学校休業日に、勉強やスポーツ・地域住民との交流活動などを行い、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる場として、放課後子ども教室を開設しています。

市内10ヶ所（河内・粟屋・布野・作木・川地・青河・田幸・川西・君田・小童）で、住民自治組織などへ運営を委託し、地域住民が直接子どもたちに関わることで地元で根付いた活動となりました。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、各教室で工夫し、学習指導をはじめ、工作教室、調理教室、スポーツ活動、落語教室、農業体験などの幅広いプログラムを企画し、子どもたちの可能性が広がる取組が行われています。

■ 放課後児童健全育成事業（教育委員会）

保護者が就労などにより、昼間留守にする家庭の小学校1年生から6年生までの児童を対象として、放課後や土曜日、春、夏、冬休みなどの学校休業日に、家庭に代わる生活の場として、遊びを中心とした活動を行う放課後児童クラブの運営を行いました。運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、子どもたちの安全・安心を確保しながら、子どもたちの健全な育成を図

りました。

八次小学校区については、施設の老朽化対策や6ヶ所で運営している施設の集約化のため、八次こども集会所を整備する予定としていましたが、八次コミュニティセンターの移転時期が遅れたため、令和4年度に向けて準備を進めました。

<放課後児童クラブの年間平均利用児童数>

(単位：人)

| 放課後児童クラブ名 | 定員 | 児童数 |
|-----------------|-----|-----|
| 三次小学校第1放課後児童クラブ | 45 | 42 |
| 三次小学校第2放課後児童クラブ | 45 | 43 |
| 十日市第1放課後児童クラブ | 80 | 63 |
| 十日市第2放課後児童クラブ | 40 | 34 |
| 十日市第3放課後児童クラブ | 40 | 36 |
| 十日市第4放課後児童クラブ | 40 | 31 |
| 神杉放課後児童クラブ | 35 | 15 |
| 酒河第1放課後児童クラブ | 40 | 27 |
| 酒河第2放課後児童クラブ | 40 | 28 |
| 八次第1放課後児童クラブ | 45 | 34 |
| 八次第2放課後児童クラブ | 40 | 27 |
| 八次第3放課後児童クラブ | 30 | 24 |
| 八次第4放課後児童クラブ | 45 | 36 |
| 八次第5放課後児童クラブ | 30 | 28 |
| 八次ふれあい放課後児童クラブ | 40 | 29 |
| 和田放課後児童クラブ | 35 | 22 |
| 吉舎放課後児童クラブ | 40 | 29 |
| 三良坂放課後児童クラブ | 40 | 28 |
| 三和小学校放課後児童クラブ | 35 | 28 |
| 甲奴放課後児童クラブ | 40 | 28 |
| ちゅうおう放課後児童クラブ | 55 | 53 |
| 計 | 880 | 685 |

<小規模型放課後児童クラブ事業補助金交付対象クラブ>

1ヶ所(八幡)

■ 障害児保育事業補助金（子育て支援部）

三次市子どもの未来応援宣言の一人ひとりを大事に支援していくという方針に基づき、民間委託保育所・認定こども園に対して、障害児などに対する支援保育士の人件費を助成し、職員体制整備の支援を行いました。

（単位：千円）

| 区 分 | | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|-------------|-------------------|---------|----------------------------|---------|--|
| | | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| Ⅰ 運営事業 | こども発達支援センター | 17,494 | 国県支出金 40 | 17,454 | 延利用者数 1,671人 |
| | 地域子育て支援センター「すまいる」 | 7,023 | 国県支出金 4,682 | 2,341 | あそびの広場延利用者数 138人 初期通所教室延利用者数 189人 |
| 放課後子ども教室事業 | | 22,631 | 国県支出金 8,387 | 14,244 | 10ヶ所 加入者 159人 |
| 放課後児童健全育成事業 | | 156,470 | 国県支出金 79,756 その他 27,750 | 48,964 | 放課後児童クラブ （公営20ヶ所,委託1ヶ所） 利用者数 685人 小規模型放課後児童クラブ 事業補助金交付(1ヶ所) 利用者数 8人 |
| 障害児保育事業補助金 | | 23,098 | | 23,098 | 保育所 3所 認定こども園 1園 |
| 計 | | 226,716 | 120,615 | 106,101 | |

イ 子育てしやすい家庭環境づくり

施策の概要

ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て相談支援センター）を中心とした、妊娠前から妊娠・出産・子育て期まで切れ目のない支援に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症に対応したデジタルツールを活用し、妊産婦や子育て支援などに取り組みました。また、ネウボラDX事業による母子保健データのデジタル化を進めました。

誰もが安心して産み育てることのできる総合的な子育て支援として、妊娠から出産、子育てにかかる費用を助成し、経済的負担や子育てに対する不安感の軽減につながりました。また、多様な子育て・保育ニーズに対応したサービスの充実を図り、子育てと仕事の両立をめざして、総合的な子育て支援体制の整備に取り組みました。

施策の成果

医療費助成のほか保育利用料などの負担軽減制度や、子どもの年齢に応じた様々な子育て支援策の実施など、子どもを安心して産み育てることのできる環境づくりを進めました。

子育てと仕事の両立を支援するために、延長保育や病児・病後児保育、土曜日午後保育を拡充するなど、様々な保育サービスを提供するとともに、保育所の施設改修などを行い、保育環境の充実を図りました。

特定不妊治療・不妊検査・一般不妊治療・不育治療費助成事業を行い、不妊治療と不育治療の負担軽減につなげました。

妊娠期から子育て期を通して安定した養育支援環境を確保するため、「ネウボラみよし」をはじめとした様々な機会を通じて、妊娠・出産・子育てに関する多数の相談支援を行いました。また、コロナ禍における妊産婦の支援を行うため、産前・産後ヘルパー派遣事業及び産後ケア事業を実施し、特に、産前・産後ヘルパー派遣事業については、利用者が大幅に増加するなど、妊産婦の不安や負担の軽減につなげることができました。

また、三次市障害者支援協議会の医療的ケア児部会を立ち上げ、医療・福祉・保育・教育などの各関係機関と医療的ケア児の課題や支援策を情報共有しながら検討し、支援体制の構築を進めました。

事務事業の実施状況

■ こども医療費助成事業（子育て支援部）

18歳までの子どもに対して、一部負担金を1医療機関につき通院500円（月4日まで）、入院500円（月14日まで）とし、補装具、院外処方薬剤は無料とする医療費助成を行いました。子どもの疾病の早期発見及び治療を促し、子どもの健やかな成長と、子育てに係る経済的な負担の軽減につなげました。

■ （新）子育て世帯応援商品券事業（子育て支援部）

市独自の子育て世帯生活支援策として、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で子育て世帯を応援するとともに、市内消費を喚起するため、子ども（高校生等以下）一人当たり1万円の地域商品券（三次藩札）を支給しました。

■ (新) 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金(子育て支援部)

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、実情を踏まえた生活の支援を行う観点から、ひとり親世帯及びひとり親世帯以外の低所得の子育て世帯に対し、子ども(高校生等以下)一人当たり5万円の特別給付金を支給しました。

■ (新) 子育て世帯への臨時特別給付金(子育て支援部)

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、子どもたちを力強く支援しその未来を拓く観点から、子ども(高校生等以下で児童手当(本則給付)支給対象または同等の所得世帯)一人当たり10万円の臨時特別給付金を支給しました。

■ 妊産婦健康診査助成事業(福祉保健部)

妊産婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図るため、妊婦一般健康診査検査券(1回)、妊婦一般健康診査(14回)、子宮頸がん検診(1回)、クラミジア検査(1回)、妊婦歯科健診(1回)、産婦健康診査(2回)の費用を助成しました。

産前から産後までのほぼ全ての定期健康診査の助成を行い、妊娠や出産にかかる経済的負担を軽減し、妊産婦の健康管理の充実を図ることにより、妊娠届の早期提出や産後うつ予防のための早期支援につながりました。

■ ネウボラみよし事業(妊娠・出産・子育て相談支援センター)(福祉保健部、子育て支援部)

ネウボラみよしの拠点を市役所東館2階とし、サテライト3ヶ所(地域子育て支援センター)では保育士、保健師、助産師、管理栄養士など専門職による相談・支援体制の充実を図りました。妊婦全戸訪問、産後ケア事業、産前・産後サポート事業、産前・産後ヘルパー派遣事業、パパママ教室などを行い、妊娠期から子育て期を通して安定した養育支援環境の確保に努めました。地域では、母子保健推進員をはじめ関係機関との協力・連携により、地域で子育て家庭を見守る環境づくりに取り組みました。

コロナ禍の妊産婦支援として、妊産婦にサージカルマスクと消毒薬を配布し、感染対策への支援を行いました。

また、令和3年度も産前・産後ヘルパー派遣事業及び産後ケア事業の利用料無償化を継続するとともに、産後ケア事業では、アウトリーチ型(訪問型)を新たに開始しました。産前・産後ヘルパー派遣事業では527件の利用、また産後ケア事業アウトリーチ型では39件の利用があり、周囲からの支援が少ない妊産婦や育児不安がある妊産婦への支援を行いました。

医療機関とも定期的な連絡会議を行い、関係機関との情報共有や支援について検討を行いました。



母子保健推進員による絵本の読み聞かせ



パパママ教室

■ (新) ネウボラ DX 事業 (福祉保健部, 子育て支援部, 教育委員会)

母子保健情報をデータ化し、情報の一元化を進めました。また、迅速な情報共有ができる体制づくりや予防的な支援につながるよう、社会福祉課、健康推進課、子育て支援課、学校教育課などの関係部署間で連携を図り、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築に取り組みました。

■ 不妊治療費・不育治療費助成事業等 (福祉保健部)

特定不妊治療 (体外受精及び顕微授精)、不育治療費に要する費用に対し、県助成額を除いた費用の全額助成を行いました。不妊検査・一般不妊治療については、県助成額を除いた費用の2分の1を助成しました。経済的負担の軽減を図ることにより、安心して治療を受けることができる環境づくりや子どもを産みやすい環境の拡充に努めました。

■ 地域子育て支援センター運営事業 (子育て支援部)

令和3年10月に地域子育て支援センター「すまいる」を新たに設置し、公営4ヶ所、民営4ヶ所の地域子育て支援センターを拠点として、子育て相談、遊びの場の提供、子育て講座などを行いました。また、北部・南部地域においても交流の場を設け、子育てミニイベントや子育てに関する相談などを行いました。

「ネウボラみよし」のサテライトである、あそび工房、北部あそびの広場、三良坂地域子育て支援センターでは、保健師や管理栄養士の巡回相談による専門的な相談や支援を行いました。

また、コロナ禍で外出を控えている子育て世帯への支援として、県が各地域子育て支援センターに配付したタブレット端末を活用し、「オンラインおしゃべり広場」の開催や子育て相談を行いました。



ネウボラ拠点での育児相談



ネウボラサテライト 巡回相談

■ こどもの「遊び」推進事業 (子育て支援部)

季節や天候に左右されず、親子が安心して遊べる場所「三次市こどもの室内遊び場 (みよし 森のポケット)」を運営し、親子のふれあいと、木のおもちゃを中心とした木育を推進しました。

また、おもちゃの模様替えや、1年を通して同じ種目で競い合う「年間チャレンジ!!」、「KAPLA®ブロックにチャレンジ!!」などのイベントを開催し、リピーターの確保に努めました。



木の玉プール



マルシェエリア



赤ちゃんの部屋

■ 保育の充実（子育て支援部）

保護者の就労や疾病等により保育を必要とする乳幼児など、多様な保育ニーズに対応した保育を行いました。養護と教育が一体となった保育を進め、健康で豊かな人間性を持った子どもの育成に努めました。また、安心して預けられる保育所とするため、川地保育所の駐車場を整備したほか、施設の衛生面や利便性の向上のための環境改善などに取り組みました。

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、こまめな換気や手洗い・消毒など、最大限の感染予防に努めながら、保育を提供しました。

■ （新）保育所 ICT 試験導入事業（子育て支援部）

業務負担の軽減と家庭との連絡の円滑化を推進するため、保育業務の ICT 化に取り組みました。

和田保育所、みわ保育所、こうぬ保育所において、ICT 化のための通信環境・設備を整備し、事務負担の軽減・効率化に向けた試験運用を開始しました。保護者からの出欠連絡や保育所からのお知らせをデジタル化したことにより、時間や場所を選ばず、コミュニケーションがとれるようになりました。

■ 多子世帯保育利用料（保育料）軽減制度（子育て支援部）

保育所・幼稚園・認可外保育所に通う第2子目の保育利用料（保育料）を半額、第3子目以降の保育利用料（保育料）を無料にし、多子世帯の保護者の経済的な負担軽減を図りました。

■ 副食費軽減事業（子育て支援部）

保育所・幼稚園などに入園している乳幼児に対する副食費を軽減し、子育てに係る経済的な負担の軽減を図りました。

■ 病児・病後児保育事業（子育て支援部）

病児・病後児保育室「すくすく」を市立三次中央病院内に、病後児保育室「おひさま」を酒屋保育所内にそれぞれ開設し、病気の回復期に至らない時期からの児童の看護及び保育を行い、保護者の子育てと仕事の両立に向けて支援しました。

■ ひとり親家庭等自立応援プロジェクト事業（子育て支援部）

経済的に支援を必要とするひとり親家庭などの学び・仕事・住まい・生活を応援するため、「ひとり親家庭等入学支度金支給事業」【学び】、「ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業」【仕事】を行いました。また、離婚などによりひとり親となった家庭の住居確保を支援するため、住居移転費用と家賃の一部を補助する「ひとり親家庭等住居確保支援事業」【住まい】を実施し、ひとり親家庭などの自立を支援しました。

■ 子育て支援課相談室事業（子育て支援部）

家庭児童相談員，婦人相談員，母子・父子自立支援員を配置し，DV（ドメスティック・バイオレンス）などの困りごと，子育ての悩み，ひとり親家庭の支援に関する事など，専門の相談員が応じ，庁内及び関係機関と連携を図りながら，問題解決に向けたサポートを行いました。

また，令和4年3月に「子ども家庭総合支援拠点」を子育て支援課に開設し，児童虐待の予防的支援の強化を図りました。

（単位：千円）

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など | |
|--------------------------------------|---------|--------------|------------------|--------|---|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | | |
| こども医療費助成事業 | 135,028 | 国県支出金 起債 | 22,395 49,600 | 63,033 | 対象者 7,086 人 |
| 子育て世帯応援商品券事業 | 78,390 | 国県支出金 その他 | 78,170 220 | | 対象者 7,445 人 換金率 約 99.21% 給付額 73,867 千円 事務費 4,523 千円 |
| 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金 | 54,848 | 国庫支出金 | 54,848 | | 対象者 1,035 人 給付額 51,750 千円 事務費 3,098 千円 |
| 子育て世帯への臨時特別給付金 | 747,923 | 国庫支出金 | 747,921 | 2 | 対象 7,427 人 給付額 742,700 千円 事務費 5,223 千円 |
| 妊産婦健康診査助成事業 | 27,568 | 国県支出金 | 1,250 | 26,318 | 受診人数 292 人 妊婦健診受診延人数 4,165 人 産婦健診受診延人数 432 人 |
| 妊婦歯科健康診査事業 | 399 | | | 399 | 受診人数 108 人 |
| ネウボラみよし事業（妊娠・出産・子育て相談支援センター） | 10,627 | 国県支出金 | 8,484 | 2,143 | 相談等延件数 8,322 件 （主な事業内訳） 妊婦訪問・来所 201 件 妊婦連絡 45 件 産後ケア事業（母乳育児相談助成事業）利用人数 74 人 産後ケア事業（宿泊 13 日， デイ 3 日，アウトリーチ 39 件） 産前・産後サポート事業（母子保健推進員乳児訪問）4 件 産前・産後ヘルパー派遣事業 利用人数 29 人（延 527 件） |
| ネウボラ DX 事業 | 25,136 | 県支出金 | 23,244 | 1,892 | 電子カルテ（ネウボラカルテ） システム構築 |
| 不妊治療費助成事業，不育治療費助成事業，不妊検査・一般不妊治療費助成事業 | 17,577 | 起債 | 5,300 | 12,277 | 不妊治療申請延件数 52 件 不妊検査・一般不妊治療申請延件数 38 件 不育治療申請件数 1 件 妊娠届出件数 38 件 |

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|------------------------------|---------------------------|-----------|---------------|-----------|---|
| | | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 地域子育て支援センター運営事業 | 地域子育て支援センター運営事業 | 54,214 | 国県支出金 35,954 | 18,260 | 年間延利用者数（親子総数） 〈公営〉 ・三良坂地域子育て支援センター 1,953 人 ・あそび工房 3,584 人 ・北部あそびの広場 255 人 ・地域子育て支援センター「すまいる」(R3.10 開設) 138 人 〈民営〉 ・認定みゆきこども園地域子育て支援センター 299 人 ・ちゅうおう憩いの森地域子育て支援センター 271 人 ・太才町 DASAIYA 517 人 ・だっこルームみよし 3,122 人 |
| | 【再掲】うち、地域子育て支援センター「すまいる」分 | (7,023) | 国県支出金 (4,682) | (2,341) | あそびの広場延利用者数 138 人 初期通所教室延利用者数 189 人 |
| こどもの「遊び」推進事業 | | 13,189 | その他 3,285 | 9,904 | 利用者数 16,512 人 |
| 保育の充実 | | 1,464,405 | 国県支出金 315,424 | 1,148,981 | 定員 1,922 人 (公立 1,584 人, 私立 280 人, 地域型 58 人) 月平均児童数 1,384 人 (公立 1,063 人, 私立 281 人, 地域型 40 人) |
| 川地保育所駐車場整備事業 《下段：繰越明許分》 | | 19,445 | 起債 19,300 | 145 | 29 台分 実施設計, 工事請負費 |
| | | 3,770 | 起債 3,700 | 70 | 用地購入 |
| 保育所 ICT 試験導入事業 《下段：繰越明許分》 | | 2,632 | | 2,632 | システム構築・備品購入 |
| | | 3,010 | 国県支出金 2,424 | 586 | 屋内配線敷設工事 ほか |

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|----------------------|-------|------------------------|-----------|--|--|
| | | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 多子世帯保育料等の軽減 | 保育所 | (54,803) | — | — | 【国】 対象者 253人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あたりの軽減額×12ヶ月分 |
| | | (38,037) | — | — | 【単市】対象者 80人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あたりの軽減額×12ヶ月分 |
| | 幼稚園ほか | 4,369 | | 4,369 | 対象施設 6施設 (幼稚園1, 認可外保育所5) 対象者70人 ※事業費は、多子世帯保育料軽減補助金交付額 |
| 副食費の軽減 | 保育所 | (8,478) | — | — | 【国】 対象者 157人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あたりの軽減額×12ヶ月分 |
| | | (35,478) | — | — | 【単市】対象者 657人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あたりの軽減額×12ヶ月分 |
| | 幼稚園ほか | 7,466 | 国県支出金 612 | 6,854 | 幼稚園 242人 認可外保育施設など 39人 ※事業費は、副食費軽減補助金交付額 |
| 病児・病後児保育事業 | 9,434 | 国県支出金 5,750 その他 226 | 3,458 | 病児・病後児保育室すくすく 開設日数 242日 延べ利用者数 93人 病後児保育室おひさま 開設日数 294日 延利用者数 95人 | |
| ひとり親家庭等入学支度金支給事業 | 2,910 | | 2,910 | 高等学校等 37人 大学等 36人 | |
| ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業 | 6,688 | 国県支出金 4,206 | 2,482 | 給付人数 5人 | |
| ひとり親家庭等住居確保支援事業 | 5,717 | | 5,717 | 補助人数 68人 | |

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|-----------------|-----------|-------------|-----------|---|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 子育て支援課 相談室事業 | 16,071 | 国県支出金 7,468 | 8,603 | 婦人相談件数 121件 (実人数 44人) (うち DV 相談 33件実人数 16人) 児童家庭相談 416件 (実人数 122人) 母子・父子自立支援相談 231件 (実人数 198人) |
| 計 | 2,710,816 | 1,389,781 | 1,321,035 | |

ウ 子育てを地域で支える環境づくり

施策の概要

市全体の子育て力の向上をめざし、子育てを地域全体で支援するという意識の醸成を図り、地域で子育てを支える環境づくりに向けて、事業を行いました。

施策の成果

地域ぐるみで子育てを支援するネットワークづくりに努め、子育て中の親や地域の子育て力の向上を図ることができました。引き続き、子どもたちと地域とのつながりを深める取組を推進します。

事務事業の実施状況

■ 子育てサポート事業（子育て支援部）

子育て中の保護者の負担軽減を図るため、子育てを支援してほしい「おねがい会員」と子育てを支援したい「まかせて会員」による相互支援活動を市が仲介し、地域ぐるみでの子育てネットワークを支援しました。

まかせて会員を増やし確実な支援を行うための講習会を開催しました。

（単位：千円）

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|-----------|-------|-------------|-------|---|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 子育てサポート事業 | 4,274 | 国県支出金 2,134 | 2,140 | 活動件数 998 件 活動時間数 3,875 時間 会員数 849 人 （内訳：まかせて会員 175 人、おねがい会員 605 人、両方会員 69 人） |
| 計 | 4,274 | 2,134 | 2,140 | |

(2) 教育 ～ふるさとが子どもを育て、子どもがふるさとを誇りにできるまち～

ア ふるさと三才を愛し、未来を創造する力を育む教育の推進

施策の概要

市費教員（非常勤講師）や学校支援員（教育支援員）の配置により、個に応じた学習指導や支援、ALT（外国語指導助手）を活用した実践的な英語でのコミュニケーション能力の育成に取り組みました。

施策の成果

少人数指導や個に応じたきめ細かい支援などにより、基礎的・基本的な学習内容の定着や学習意欲が向上しています。また、生徒指導上の課題も早期対応・解決が図られています。

事務事業の実施状況

■ 【個々の学び支援事業】（教育委員会）

＜市費教員（非常勤講師）＞

中学校の数学科・外国語科において、非常勤講師5人を任用し、個々のニーズや学習の習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を進めました。

複式学級のある小学校に理科支援教員を配置し、実験補助や理科指導の充実を進めるとともに、外国語指導員を配置し、小学校5・6年生について外国語科の授業を単式で実施するなど、外国語教育の充実に取り組みました。

＜学校支援員（教育支援員）＞

発達障害等のある特別な支援を必要とする児童・生徒や生徒指導上の課題を抱える児童・生徒など、通常の学級に在籍する特別な配慮が必要な児童・生徒への支援・指導の充実を図るため、校長が必要とする教育活動の支援を目的として、18校28人の学校支援員及び教育支援員を配置しました。

具体的には、通常の学級に在籍する、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症などにより、生活及び学習上の困難を有する児童・生徒に対し、学習及び生活指導上のきめ細やかな支援や、いじめ、不登校、暴力行為、授業妨害など課題のある児童・生徒が在籍する学級に対する支援、放課後や長期休業中の学習支援などを行いました。また、教務事務補助員を3人配置し、担任などの印刷業務等に係る業務の軽減を図り、学校での教育活動の充実を図りました。

＜特別支援教育（障害児介助指導員）＞

特別支援教育では、各小中学校において、障害のある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援を行い、能力や可能性を最大限に伸ばし、生きる力を培うことをめざして取り組んでいます。特別支援学級では、児童・生徒の学習や生活介助等のため、障害児介助指導員を22人配置しました。

■ 特別支援活動充実事業（教育委員会）

三次市こども応援センター教育相談員による就学相談や、県・市などの関係機関との連携により、適正な就学指導の支援体制の構築を図りました。

また、就学指導委員会を計画的に開催し、幼児・児童・生徒の教育的ニーズに応じた就学の実現に取り組み、「通級による指導」を小学校6校（自校2校、巡回による指導4校）、中学校2校（巡回による指導）において実施しました。

さらに、特別支援教育の専門家を派遣し、特別支援に関する指導を行う巡回相談の実施や特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図るための特別支援教育研修会を開催しました。

■ 英語力向上事業（教育委員会）

異文化を理解し尊重する態度や英語で楽しくコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をめざし、ALT11人を小中学校に配置し、小学校3・4年生の外国語活動、小学校高学年、中学校の英語の授業において、チームティーチング（複数の教師による授業）を行いました。また、小学校1・2年生を対象として、英語活動を行いました。ネイティブの発音を通して児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図っています。

また、令和2年度から、小学校では高学年の外国語科が教科（必修化）となっています。指導者がALTと対話モデルを見せたり、児童が学んだ英語を実際に使って、ALTとコミュニケーションをとったりするなど、ALTが活躍しています。さらに、授業以外でも、休憩時間、昼食時間、放課後にALTと児童・生徒ができるだけ一緒に過ごすなど、最大限にALTを活用しています。

■ がんばる中学生の英語学習応援事業（教育委員会）

平成28年度から、日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定（英検）の受検機会の拡大による中学生の英語力及び学習意欲の向上を図ることを目的として、三次市立中学校に在籍する生徒の保護者に対し、検定料の全額を補助してきました。

令和3年度は、443人の児童・生徒が英検にチャレンジしました。また、文部科学省は中学生に求められる英語力として、中学校卒業時段階で英検3級程度以上を達成した生徒の割合50%を目標としています。本市では、55.2%の生徒が目標を達成し成果も見られることから、本事業は十分に目的を達成していると考えられます。

■ 個々の学習支援事業（教育委員会）

問題データベースやタブレット用ドリルを活用して、既習事項の復習、毎日のドリル学習、家庭学習を行うことで、個々の進度にあわせて学習を進めることができ、児童・生徒の基礎・基本の定着を図ることができました。

また、個々の学習の定着度を測り、学校における課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図るため、全小中学校で令和4年1月に学力到達度検査を実施しました。小学校1・2年生は国語・算数、小学校3年生から6年生までは、国語・社会・算数・理科、中学校では国語・社会・数学・理科・英語について実施しました。小学校と中学校をあわせた全体の正答率は71.6%で全国平均を7.7ポイント上回りました。

学力到達度検査の実施後には、個々の児童・生徒の課題克服のため、問題データベースやタブレット用ドリルを活用して、補充指導を実施しました。

■ 体験活動充実事業（教育委員会）

児童の自立心や主体性、より良い人間関係を形成する態度を育てるとともに、ふるさと三次の良さを実感させることを目的として、市内の小学校5年生を対象とし、日常と異なる環境での集団生活の体験や、地域の自然・文化・歴史に触れたり、地域の方々との交流や地域の防災活動に関わる

体験などを行っています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、市内18校の小学校が1日のみまたは宿泊を伴わない方法で2日以上の実験活動を実施しました。実施した学校からは、活動に制限がある中でも、友達と協働する姿が見られたという報告や、地域の方との交流や体験を通して、地域の良さに改めて気づいたり、地域の支えや防災活動を行う意義を考えたりすることができたという児童の声が聞かれました。

■ 【三次版学校 ICT 活用事業】（教育委員会）

（新）＜GIGA スクールサポート事業＞

インターネット回線など通信環境整備やインターネットを安全に利用するための Web フィルタリングを整備し、市内図書館など、校外でも学習できる環境の整備を進めてきました。

また、児童・生徒のタブレット端末保守や端末の修繕などを行い、ICT の活用を推進しました。

児童・生徒は授業や家庭学習の中で積極的に授業支援アプリを活用しており、一人ひとりに最適で効果的な学びの実現に向けた取組を推進することができています。

＜ICT 教育サポート事業＞

ICT 支援員4人が定期的に全学校を巡回し、児童・生徒や教職員への ICT 機器の設定や操作指導、ICT を活用した授業づくりの支援を行いました。

各学校では積極的に ICT を活用することができています。児童・生徒は、授業中に困ったことがあれば、ICT 支援員に質問をしており、積極的に ICT 機器を使うことができています。教職員にとっては、授業中に ICT 機器の設定や操作をサポートしてもらえることで、児童・生徒への指導に集中することができます。また、授業以外では、ICT 機器の効果的な活用方法や学習支援ソフトの活用方法などについて ICT 支援員から学び、ICT 機器を活用した効果的な授業づくりにつながっています。

■ オンライン家庭学習つなげる環境支援事業（教育委員会）

家庭において、タブレット端末を活用した学習や臨時休校中の学校と家庭との連絡、オンライン学習の実施など、学びを保障するための家庭の通信環境整備を早期に行うことを目的とし、申請された家庭へ1万円を上限とした補助を行いました。

■ 部活動指導員配置事業（教育委員会）

部活動は、生徒の自己肯定感を高めたり、人間関係の構築を図ったりするなど、生徒の学びの場としてとても意義のあるものです。スポーツや文化活動などの専門的な知識や技能をもつ部活動指導員を配置することで、より一層の部活動の充実と教職員の「働き方改革」の推進をめざしています。

令和3年度は、卓球部、バスケットボール部、バレーボール部、野球部、サッカー部、吹奏楽部、音楽部、各1人計7人の部活動指導員を5校に配置しました。顧問と部活動指導員の複数体制で指導する機会が多くなりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しながら部活動を実施することができました。配置した全ての学校から、「顧問の負担が軽減されている」という回答が得られています。

■ 学校図書館リニューアル事業（教育委員会）

児童・生徒の知的好奇心を増進し、様々な興味・関心に応える魅力的な学校図書館にするため、学校図書館リニューアル事業として、学校図書の実、環境整備に取り組みました。

学校図書の充実では、社会の変化や学問の進展を踏まえ、新しい情報に触れる環境の整備の観点や、学校図書館図書標準で定められている冊数の図書を整備できるように学校図書館図書の充足・更新を行いました。環境整備では、学校の図書館が、児童・生徒にとって、ゆっくり読書できる心地よい空間、また調べ学習、一人学びができる空間となるよう整備を行いました。市内4校の小中学校に、蔵書を収納する書架や落ち着いて読書ができるためのマット、机や椅子などを整備しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|---------------------------------|---------|-------------|---------|--|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 【個々の学び支援事業】市費教員(非常勤講師) | 14,875 | 起債 14,200 | 675 | 三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +7.7 ポイント |
| 【個々の学び支援事業】学校支援員(教育支援員含む) | 60,740 | 起債 30,200 | 30,540 | 学校支援員及び教育支援員数 28 人 |
| 【個々の学び支援事業】特別支援教育(障害児介助指導員) | 43,453 | 起債 5,400 | 38,053 | 障害児介助指導員数 22 人 |
| 特別支援活動充実事業 | 4,452 | | 4,452 | オンラインによる研修会の実施 2 回(受講者 86 人) 通級による指導を増設(中学校) |
| 英語力向上事業 | 58,997 | | 58,997 | 三次市学力到達度検査(英語)における平均正答率の全国平均正答率比 +1.9 ポイント(中学) |
| がんばる中学生の英語学習応援事業(英語検定料補助) | 1,791 | | 1,791 | 補助人数 443 人 中学校卒業時段階で英検 3 級程度以上の割合 55.2% |
| 個々の学習支援事業 | 10,940 | | 10,940 | 三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +7.7 ポイント |
| 体験活動充実事業 | 754 | | 754 | 体験活動が、より良い人間関係の形成につながるように内容の工夫をした学校 18 校/18 校 |
| 【三次版学校 ICT 活用事業】GIGA スクールサポート事業 | 27,990 | | 27,990 | ICT 機器を活用した授業を週 1 回以上行った学校 94.9% |
| 【三次版学校 ICT 活用事業】ICT 教育サポート事業 | 9,570 | | 9,570 | ICT 支援員 4 人配置 (学校訪問回数延べ 231 回) |
| オンライン家庭学習つなげる環境支援事業 | 190 | | 190 | 支援事業利用 19 件 |
| 部活動指導員配置事業 | 2,532 | 国県支出金 1,622 | 910 | 部活動指導員 7 人配置 |
| 学校図書館リニューアル事業 | 13,724 | | 13,724 | ・学校図書館図書標準における図書の充足率 90%以上が全体の 81%(27 校/33 校) ・環境整備 4 校実施 |
| 計 | 250,008 | 51,422 | 198,586 | |

イ 学校・家庭・地域の協働による教育力の向上と補完機能の強化

施策の概要

学校・家庭・地域が協働して地域の将来を担う子どもたちを育てるため、社会教育委員をはじめ、地域活動団体や地域住民が連携した組織づくり、土台づくりに向けた取組を行いました。

施策の成果

甲奴地区家庭教育支援チームに続き、令和3年度は、三次地区家庭教育支援チームを立ち上げました。三次地区では、身近な取組として、花壇の整備などを行いました。地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働できるよう、「親の力」をまなびあう学習プログラムにも参加し、家庭や地域の教育力の向上に努めました。

事務事業の実施状況

■ 社会教育委員の活動（教育委員会）

学校・家庭・地域の連携について学び、家庭教育支援チームの育成・拡大、家庭教育支援の啓発活動を行うことを念頭において活動しました。

また、地域学校協働活動の一環として、コミュニティ・スクールについての研修会にも参加し、先進地の地域学校協働活動推進員の働きや、地域の活動について学びました。

■ 家庭教育の充実（教育委員会）

家庭教育の充実を図るため、学校や子育て支援センターなどで「親の力」をまなびあう学習プログラムを活用し、子育てのこと、親や地域の役割について、母子保健推進員の研修会で意見交流を行いました。計25回行い、延べ186人が参加しました



意見交流
(南部母子保健推進員の研修会)

■ 青少年育成講演会（教育委員会）

「生きる力」を育み、主体的に役割を果たすことのできる青少年を育成するため、作木中学校生徒26人、三次中学校生徒38人を対象に、青少年育成講演会「性と生を考える」を開催しました。講演会では、体と性についての正しい知識と、お互いを思いやりコミュニケーションをとることが、命と体を守ることに繋がるということを学びました。



作木中学校



三次中学校

「性と生を考える」講演会

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|----------|-----|---------|------|-------------------------|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 青少年育成講演会 | 62 | | 62 | 中学生とその保護者を対象に講演会を実施 64人 |
| 計 | 62 | | 62 | |

■ (新) 高校生地域活動支援事業補助金 (教育委員会)

郷土に愛着と誇りを持つ人材の育成を目的に、市内高等学校の生徒が取り組む地域振興又は地域貢献に関する活動などを支援しました。

この事業を活用し、三次青陵高等学校は、「足踏み式消毒液スタンド」「飛沫防止ボード」を製作され、市内中学校3校及び田幸コミュニティセンターへ設置されました。また、塩町中学校区の小学校4校の6年生を対象に、プログラミング教室を開催されました。

日彰館高等学校では、吉舎駅周辺などの地域清掃ボランティアにより、地域へ感謝する心を育む取組が行われました。また、市内2ヶ所の保育所園児と保育士を招待して人形劇の会を開催し、交流を深めました。

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|----------------|-----|---------|------|--|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 高校生地域活動支援事業補助金 | 407 | | 407 | 三次青陵高校 ・足踏み式消毒液スタンド3台、飛沫防止ボード6台 ・プログラミング教室開催(4小学校) ・生徒探究発表事業 日彰館高校 ・地域清掃、草刈り活動(年2回) ・人形劇開催(2保育所) |
| 計 | 407 | | 407 | |

ウ 活力と信頼の学校づくり

施策の概要

子どもたちが安全・安心に学校で学び、生活するために、生徒指導体制の確立と教育相談の一層の充実を図り、不登校対策や問題行動に迅速、適切に対応しています。

また、学校施設整備事業に取り組み、ソフト面・ハード面ともに、より良い教育環境の整備に努め、保護者、地域から信頼される学校運営を行いました。

施策の成果

子どもたちの教育環境の整備などを図るため、通級学級や特別支援学級新設に係る教室整備をはじめとした学校施設整備事業、スクール便運行事業及び児童生徒安全確保緊急メール事業を行いました。

不登校傾向の児童・生徒やいじめなどの早期発見・早期対応に向けて、学校、家庭、関係機関が連携し、不登校の解消やいじめ問題の解決に取り組みました。特に、教室に入りづらい児童・生徒の居場所として学校内学習室を設け、個別に支援を行ったり、タブレット端末を活用して、登校できない子どもとオンラインでつながり、状況把握や学習支援を行っている学校もありました。

学校・家庭・地域が協働して小中一貫教育を推進し、中学校区全体で開かれた学校づくりを進め、児童・生徒の自己肯定感の向上や基礎的・基本的な学習内容の定着を図りました。

事務事業の実施状況

■ 学校施設整備事業（教育委員会）

特別な配慮が必要な児童・生徒が学習する通級学級及び特別支援学級の新設に係る教室整備をはじめ、多数の施設整備を進め、各学校の学習環境の整備を図ることができました。

■ スクール便運行事業（教育委員会）

学校統廃合に伴う遠距離通学の児童・生徒（一部保育所含む。）に対して、バス・タクシーを含め、26路線のスクール便を運行しました。

■ 児童生徒安全確保緊急メール事業（教育委員会）

市内の児童・生徒の保護者に対し、不審者や災害などの発生情報を、電子メールを利用した一斉配信で速やかに伝達することにより、児童・生徒の安全確保を図ることを目的に緊急メール事業を引き続き行いました。学校においては、警報等の発表による臨時休校などの連絡や不審者情報、学校行事における情報伝達などに活用しています。

■ いじめ防止・不登校対策推進事業（教育委員会）

教職員を対象に、いじめの未然防止や不登校解消に向けた研修会を開催し、いじめを許さない風土づくりやいじめの早期発見・早期対応、中1ギャップの解消、不登校の未然防止に努めています。

また、総合質問紙調査を実施して、子どもたちの学級環境や社会性などを分析し、学級経営の充実や教師と子どもたちの信頼関係、子どもたち相互の好ましい人間関係を育てるために活用しました。

三次市こども応援センターや適応指導教室においては、教育相談員や青少年指導相談員、スクールカウンセラーによる相談体制の充実を図り、学校や子ども、その保護者からの就学や不登校などの不安や悩みに対して相談・助言を行い、悩み解消に向けての取組を進めました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

さらに、市内小中学校に、三次市スクールサポーターを派遣し、学校内外を巡回したり、教職員へ生徒指導対応などの助言を行い、安全・安心な学校づくりを推進しています。

■ 小中一貫教育充実事業（教育委員会）

義務教育9年間を一体のものとしてとらえ、同じ中学校区の小中学校がめざす子ども像や教育目標を共有し、子どもたちの能力や個性を豊かに伸ばすために取り組みました。コロナ禍の中でも、ICTを活用したり、ゲストティーチャーを招いて学習をしたりするなど、各校で工夫した取組を進めました。

キャリア教育を軸とした、共通の教育課程「コアカリキュラム」と、各中学校区の特色を活かした「オリジナルカリキュラム」を全ての中学校区で行い、児童・生徒の成長につながる取組を進めるとともに、地域や児童・生徒の実態を踏まえた各学校の実践研究の推進や、各中学校区の取組をまとめた小中一貫カレンダーや小中一貫だよりなどを作成し、広く情報発信しました。



地域人材と協働した取組（三次中学校区）

E-Meeting in KONU2022（甲奴中学校区）

■ 学校給食調理場整備事業（教育委員会）

（仮称）三次市新学校給食調理場建設に向けて、基本設計、実施設計、造成設計、鶏舎などの解体工事設計、受配校改修工事設計を行いました。あわせて、鶏舎などは解体工事が完了し、造成工事及び本体工事に着手しました。

「三次市学校給食食材安定調達連絡協議会」を5回開催し、調理場に三次産農産物を取り入れ、子どもたちに安全・安心な給食を提供するとともに地産地消を推進するためのしくみづくりを進めました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|-------------------------------|---------|---------------------------|---------|--|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 学校施設整備事業 《下段：繰越明許分》 | 37,118 | 起債 3,300 | 33,818 | 三次小学校変圧器取替工事ほか |
| | 41,712 | 国県支出金 14,157 起債 26,100 | 1,455 | 八次小学校トイレ改修工事(1期) みらさか学園体験広場整備工事 通級学級及び特別支援学級等空調 機整備工事ほか |
| 調理場施設設備等 整備事業 | 7,071 | | 7,071 | 君田学校給食共同調理場浄化槽取 替工事ほか |
| スクール便運行事 業 | 113,316 | 国県支出金 1,190 | 112,126 | 路線数 26 路線 利用者数 259 人 |
| 児童生徒安全確保 緊急メール事業 | 562 | | 562 | 保護者の加入状況 120.9% |
| いじめ防止・不登校 対策推進事業 | 19,857 | | 19,857 | 「学校は楽しい・好きだ」と、肯 定的に答えている児童・生徒の割 合 85%以上(令和3年度広島県児 童生徒学習意識等調査[小5・中2] の結果 79.3%) |
| 小中一貫教育充実 事業 | 1,733 | | 1,733 | 三次市学力到達度検査における市 平均正答率の全国平均正答率比 +7.7ポイント |
| 学校給食調理場整 備事業 《下段：通次繰越分》 | 68,368 | 起債 51,000 | 17,368 | 新学校給食調理場建設工事基本・ 実施設計業務ほか |
| | 15,387 | 起債 11,500 | 3,887 | 造成設計業務ほか |
| 計 | 305,124 | 107,247 | 197,877 | |

(3) スポーツ・文化 ～学びたい気持ちを応援するまち～

ア “スポーツのまちみよし”の実現

施策の概要

子どもから高齢者まで、全ての市民がそれぞれのライフステージに応じたスポーツとの関わり方を考え、「いつでも」、「どこでも」、「誰も」が普段の生活の中で自然とスポーツに親しみ、健康でいきいきと活力あふれる“スポーツのまちみよし”の実現をめざし、市民誰もがスポーツを楽しめる環境づくりのほか、スポーツを支える人材の育成、スポーツ施設を活用した合宿や大会の誘致などに取り組みました。

施策の成果

住民自治組織や学校、企業、総合型地域スポーツクラブなどの関係団体と連携し、スポーツを通じた一体感の醸成と、ライフステージに応じたスポーツの実施、スポーツによる健康づくりへの意識の向上という効果が得られました。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの大会やイベントが中止になる中、対策を講じながら複数の事業が開催され、市民のスポーツへの関心度や活力向上が図られました。

特に、令和2年12月に認定を受けた「女子野球タウン」の取組については、大会の誘致や開催支援により、女子野球の盛り上げにつなげました。引き続き、女子野球の合宿・大会誘致に継続的に取り組みながら、地域や各関係組織などとの連携により、女子野球を盛り上げていくことで、女性の活躍、関係人口の拡大、地域活性化につなげていけるよう取組を進めていきます。

事務事業の実施状況

■ 三次市「おうちチャレンジデー2021」（地域振興部）

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、個人及び家族単位での参加を対象とした「おうちチャレンジデー2021」に参加しました。コロナ禍での運動啓発として、市広報紙、市ホームページ、チラシのほか、Facebook（フェイスブック）やLINE（ライン）、Twitter（ツイッター）などSNSを活用した情報発信を行い、コロナ禍にも関わらず、1,173人の参加がありました。

■ （新）女子野球観戦・交流事業（地域振興部）

令和2年12月の「女子野球タウン」認定に伴い、令和3年6月に「三次市女子野球タウン認定事業連携協定調印式及びトークセッション」を三次きんさいスタジアムで行いました。

また、大会誘致として、7月に第7回女子硬式野球西日本大会のプレ大会を市内3球場で開催したほか、11月に本大会を市内5球場で開催し、「スポーツのまちみよし応援事業実行委員会」を中心に、各関係組織・団体、企業などとの連携を図り、女子野球の盛り上げを行いました。

引き続き、地域や各関係組織などと連携を図りながら、女子野球の合宿・大会誘致に継続的に取り組み、本市に女子野球の文化が根付くよう取り組んでいきます。

また、地元女子野球チーム（ブレイブガールズ広島）の練習に、中四国女子硬式野球アンバサダーの浅井 樹氏（元広島東洋カープ選手）の派遣を受け、定期的に指導をしていただいています。今後も、広島東洋カープや中四国女子硬式野球連盟等と連携し、地元女子野球チームを中心に女子野球の体験・交流機会などを増やすことで、多くの女性が野球を続けられ、夢を追い続けることができる環境を整えていきます。



三次市女子野球タウン認定事業連携
協定調印式及びトークセッション



第7回女子硬式野球
西日本大会プレ大会



第7回女子硬式野球
西日本大会



浅井アンバサダー定期指導

■ 各種スポーツ大会の開催（地域振興部）

三次市体育協会やスポーツ少年団、市内各地域が行う市民の体力づくりの取組や市民が進んで参加できる多種多様なスポーツ大会を支援しました。このことにより、参加機会の拡大と市民スポーツ活動の振興につなげました。

京都で行われる全国大会への出場をかけた広島県高等学校駅伝競走大会では、感染予防策として、これまでの駅伝形式から片道ロードレース方式に変更しての実施となりましたが、男子の部 40 チーム、女子の部 24 チーム（男女あわせて約 400 人）の参加がありました。

| 区 分 | 内 容 | 参加者数 |
|-------------|---|------------------------|
| スポーツ大会 | 名称 男子 72 回・女子 38 回広島県高等学校 駅伝競走大会 月日 令和 3 年 11 月 7 日 | 男子：40 チーム 女子：24 チーム |
| | 名称 県民体育大会出場 | 60 人 |
| スポーツイベント | 名称 おうちチャレンジデー（うちチャレ） 月日 令和 3 年 5 月 26 日 | 参加者数 1,173 人 |
| スポーツ・文化芸術報奨 | 名称 世界大会・全国大会出場 | 全国大会 31 件 |

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|---|-------|----------------------|-------|--|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| スポーツのまちみ よし応援事業(女子 野球観戦・交流事 業) | 1,499 | 国県支出金 749 その他 750 | | 女子硬式野球西日本大会 プレ大会 12 チーム 本大会 27 チーム |
| 男子 72 回・女子 38 回広島県高等学校 駅伝競走大会 | 2,400 | | 2,400 | 男子：40 チーム 女子：24 チーム |
| 県民体育大会出場 | 84 | | 84 | 60 人 |
| 世界大会・全国大会 出場 | 470 | | 470 | 全国大会 31 件 |
| 計 | 4,453 | 1,499 | 2,954 | |

■ (新) 三次市営球場トイレ改修事業 (地域振興部)

三次市営球場のトイレは、これまで和式で簡易水洗弁が老朽化するなど、衛生面での課題があったため、洋式便器に改修することで、快適で衛生的な利用環境を確保しました。

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|-------------------|-------|---------|-------|--|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 三次市営球場トイ レ改修事業 | 5,830 | | 5,830 | 三次市営球場トイレの洋式便 器への改修 ・男子トイレ 2 基× 2 ヶ所 ・女子トイレ 2 基× 2 ヶ所 ・本部用便所 1 基 |
| 計 | 5,830 | | 5,830 | |

イ スポーツを通じて子どもの夢を応援！

施策の概要

プロスポーツの試合の観戦やプロ選手を招いてのスポーツ教室の開催など、あこがれのトップアスリートと身近に接し、指導を受けることで、技術の向上だけでなく、スポーツに対する関心を高め、夢をもって前向きに進んでいく子どもを育てます。

施策の成果

プロ選手によるスポーツ教室では、技術指導だけでなく、トップアスリートと身近に接することで、スポーツに対する意識がより高揚しました。また、プロスポーツ応援事業では、ハイレベルの技術を目の当たりにする中で、子どもたちは感動を覚え、自分の夢を育むきっかけとなりました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年に延期された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会については、平成 25 年 11 月に事前合宿誘致に名乗りを上げて以来、8年間に渡り、実現に向け様々な取組を重ねてきましたが、本大会直前に事前合宿が中止となるという大変残念な結果となりました。しかしながら、メキシコ陸上選手団の強化合宿の受入れが実現できたほか、各種機運醸成の取組やパラリンピックに出場した本市ゆかりの選手の応援などを通じて、様々な実績を積み上げることができ、一定のレガシーを残すことができました。

同様に、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本市でオリンピック聖火リレーを実施することはできませんでしたが、1964年東京大会で最終聖火ランナーを務められた坂井義則さんのご功績などを継続的に発信することで、本市と聖火リレーの深い関わりを市内外にPRすることができました。また、パラリンピック聖火フェスティバルの実施により、本市ゆかりのパラリンピック出場選手の川本翔大さん（自転車C2クラス）や白砂匠庸さん（陸上やり投げF46クラス）を広く市民で応援する機運を醸成することができました。

事務事業の実施状況

■ 「トップアスリートによるスポーツ教室」の開催支援（地域振興部）

広島ドラゴンフライズの選手・コーチによるスポーツ教室のほか、アンジュヴィオレ広島のコーチによる年間を通しての女子サッカースクールの開催を支援し、子どもたちがより高度な技術を修得できる機会を設けました。

スポーツ少年団や中学生の子どもたちがトップアスリートから指導を受け、競技力の向上と意識の高揚が図られました。



広島ドラゴンフライズによる
バスケットボールクリニック



アンジュヴィオレ広島の
コーチによるサッカー教室

■ 「プロスポーツ応援事業」の開催支援（地域振興部）

日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ1部）公式戦を誘致し、201人のアンジュヴィオレ広島応援隊がみよし運動公園陸上競技場で観戦しました。

当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大声での応援が禁止となる中、拍手や太鼓での新しいスタイルで盛り上がりました。



日本女子サッカーリーグ公式戦開催
（みよし運動公園陸上競技場）

■ 東京2020オリンピック・パラリンピック支援事業（地域振興部）

<事前合宿>

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会については、事前合宿の受入れや機運醸成の取組を継続してきました。

しかしながら、令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症は収束することなく、世界各国では本選に向けた選考会、予選大会などを行うことが困難な状況もあり、6月にはメキシコオリンピック委員会から、陸上競技の事前合宿は行わないことの意味表明がされました。陸上選手団は、平成30年度及び令和元年度に本市で強化合宿を行ってきた実績があり、再会を心待ちにしていたが叶いませんでした。なお、本市で強化合宿を行った陸上選手団から、2人の選手が東京2020オリンピック出場を果たしています。

また、メキシコ野球選手団についても、広島東洋カープとの練習試合が決定し、三次きんさいスタジアムでの練習公開、市民との交流など、7月の事前合宿に向け準備を進めていましたが、直前に選手団から新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されたため、急ぎょ中止となりました。

こうした中、広島県と事前合宿受入市町により実施された、メキシコ選手団への応援リレーメッセージ動画の制作のほか、市内小中学校の児童・生徒を対象としてメキシコ選手団への折鶴レイの贈呈や激励の手紙を送る取組に参加するなど、機運醸成を中心に取り組みました。



ホストタウン・相手国・地域
応援リレーメッセージ動画



選手団に折り鶴レイを贈呈する取組
（広島県立三次中学校）

<パラリンピック>

本市ゆかりの、川本翔大さん（三和町出身）及び白砂匠庸さん（市内事業所勤務）を応援するため、東京2020パラリンピック出場決定や、入賞をお祝いする懸垂幕の設置をはじめ、市ホームページやSNSを活用し、出場日程や競技結果などを積極的に情報発信しました。

川本翔大さんについては、三次市民ホールにて、競技中継（コミュニティライブサイト）を放映することとし、三和町の後援会をはじめ、市民が安全に観戦できるよう準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、やむなく中止としました。川本翔大さんは、自転車競技男子個人 3,000m パシュートC 2クラスで4位入賞、男子個人 1,000m タイムトライアルC 1-3クラスで6位入賞を果たされました。

白砂匠庸さんも、陸上競技男子やり投げF 46 クラスにて6位入賞の成績を収められ、両選手の活躍により、大きな感動とともに勇気や希望をいただきました。



競技中継（コミュニティライブサイト）
案内チラシ



健闘を称える懸垂幕の設置
（三次市役所本庁舎）

■ （新）富久正二さん（オリンピック聖火ランナー内定者）からの寄贈トーチの展示（経営企画部）

令和3年11月15日、オリンピック聖火ランナー内定者の富久正二さんから本市へオリンピック聖火リレートーチの寄贈がありました。寄贈の際に「スポーツが多くの人々の希望の光となつてほしい」と語られた富久さんの想いを大切に、多くの市民にご覧いただけるようにみよし運動公園陸上競技場内に展示しています。



市長にトーチを手渡す富久正二さん



みよし運動公園内の展示

■ （新）三次市東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバル（経営企画部）

「東京 2020 パラリンピック聖火」は、各自治体が様々な方法で火をつくり東京都で一つにまとめられ誕生することから、本市でも広島県の聖火フェスティバルの一環として、令和3年8月12日にみよし風土記の丘において火おこしワークショップを開催しました。参加者の皆さんに古代の火おこしの方法などにより火をおこしてもらい、「平和のつどい MIYOSHI 2021 の火」と「鶉飼のかがり火」とあわせ、「三次市の火」として県の集火式へと送り出しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

あわせて、パラリンピックへの出場が決定していた本市ゆかりの選手（川本翔大さん、白砂匠庸さん）に市民の皆さんから応援メッセージを贈る取組を行いました。



パラリンピック聖火フェスティバル



川本選手の表敬訪問

(単位：千円)

| 区 分 | | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|-------------------------------------|-----------|--------|---------|--------|--|
| | | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 広島ドラゴンフライズによる バスケットボールクリニック | | 100 | その他 | 100 | 参加者 40人 |
| 三次地区女子サッカープロジェクト | | 246 | その他 | 246 | 参加者 延 100人 |
| アンジュヴィオレ広島応援隊 | | 197 | その他 | 197 | 観客数 201人 |
| 事業 東京2020オリンピック・ パラリンピックに係る支援 | 事前合宿支援事業分 | 11,961 | | 11,961 | 選手団に手紙を送る 取組に参加した 児童・生徒数 約 300人 |
| | 聖火リレー事業分 | 2,963 | 国県支出金 | 609 | 2,354 |
| 計 | | 15,467 | | 1,152 | 14,315 |

ウ 三次の文化・芸術の発展継承と創造

施策の概要

令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症により先が見通せない状況下で、文化・芸術施設では休館や利用制限が行われる中、実施可能な取組を模索しながら文化・芸術の発展や継承に努めました。

奥田元宋・小由女美術館では、企画展示室の照明設備のリニューアルを行いました。

三次の子どもたちの健やかで心豊かな成長を願う真田一幸さんの寄附を財源として創設した「真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業」では、子どもを対象としたスポーツ・文化団体に対する補助金の交付や、スポーツや文化を通して子どもたちの活動を支援するために用具の購入を行いました。

施策の成果

奥田元宋・小由女美術館の企画展示室については、常設展示室に続き、照明設備のリニューアル工事を実施しました。この工事によって、展示作品の色が鮮明になり、作品本来の魅力を伝えるとともに、来館者の知的好奇心をひき立てることができるようになりました。

みわ文化センターでは、老朽化による屋根の雨漏りなどを解消し、文化及び生涯学習拠点施設の整備を進めました。

三次市民ホールでは、市民の意見が反映できる外部のモニタリング組織として設置した「三次市民ホール運営委員会」を実施し、適正かつ効果的な運営を進めることができました。

コロナ禍において、実施可能な取組を考えて工夫し、市民の文化・芸術への関心を深めることに努めました。

事務事業の実施状況

■ 美術館の運営とネットワーク事業（教育委員会）

美術館の運営は、4館とも指定管理者による効率的な管理・運営が行われ、各館の個性を活かした常設展や魅力的な企画展、ロビーコンサートなどのイベントが開催されました。

美術館の入館者は、奥田元宋・小由女美術館が56,982人、はらみちを美術館は4,930人、美術館あーとあい・きさは2,680人（吉舎歴史民俗資料館含む）、三良坂平和美術館は5,423人でした。

■ 奥田元宋・小由女美術館展示室リニューアル事業（教育委員会）

企画展示室の照明をLED化するための改修工事を実施しました。照明設備を大きくリニューアルし、これまで以上に、企画展ごとの特徴を活かした、作品が映える空間となりました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|----------------------------------|---------|------------|-------|-----------------------------|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 奥田元宋・小由女美術 館リニューアル工事 (展示室) | 110,638 | 起債 109,300 | 1,338 | (二期)照明改修工事 空調設備改修工事 設計業務 |
| みわ文化センター整 備事業 | 51,701 | 起債 51,000 | 701 | 屋根等改修 舞台照明修繕工事 |
| 計 | 162,339 | 160,300 | 2,039 | |

■ 真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業（教育委員会）

子どもを対象としたスポーツ・文化の振興及び育成を図るため、54 団体に真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金を交付しました。また、みよし運動公園と三和総合運動公園で使用する用具を購入しました。

〈真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金〉 (単位：千円)

| 団体種別 | 補助対象活動 | 件数 (件) | 補助金額 |
|-------|--------|--------|-------|
| スポーツ系 | 団体運営 | 41 | 3,282 |
| | 大会等開催 | 7 | 592 |
| 文化系 | 団体運営 | 5 | 347 |
| | 大会等開催 | 1 | 40 |
| 計 | | 54 | 4,261 |

〈真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業用具整備〉 (単位：千円)

| 用具種別 | 品名等 | 件数 (件) | 購入金額 |
|-------|----------------------------------|--------|-------|
| スポーツ系 | バックネット2, ダイヤモンド カバー1, スコアボード1 | 4 | 2,715 |
| 計 | | 4 | 2,715 |

■ 三次市民ホールにおける事業（教育委員会）

芸術文化の振興及び交流を図り、芸術文化活動の発信拠点及び賑わい創出の場となるよう、コロナ禍における実施可能な取組を模索し、育成事業として次の事業を実施しました。

みよしKIRIRI児童合唱団は、定期演奏会などは中止となりましたが、定期練習を行いました。

人形劇団きりりは、こども人形劇場等の公演活動などを行いました。

きりり倶楽部共同事業として、楽楽ゼミナール、ティーブレイクコンサートなどを実施しました。

吹奏楽マスタークリニックは、広島ウインドオーケストラ団員により市内小中学校吹奏楽部5校、ブラスバンド部1校の生徒へのレッスンを実施しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|-----------|---------|---------|---------|--|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 三次市民ホール事業 | 112,859 | | 112,859 | <ul style="list-style-type: none"> ・きりり倶楽部共同事業 500 人 ・吹奏楽マスタークリニック 68 人 ・ホール開放 大ホールひとりじめ! 107 人 ・きりりこどもコンシェルジュ 2 人 ・ホール体験 きりりグランメイズ 19 人 ・きりりスペシャルライブ 654 人 ・きりりパワーライブ 574 人 ・きりりプレミアムクラシック 218 人 ・きりりドラマチック・ステージ 189 人 ・きりりファミリー劇場 545 人 ・きりりほっとコンサート 386 人 ・きりりシネマ倶楽部 1,449 人 ・きりりこども人形劇場 114 人 ・きりりびよびよコンサート 98 人 ・きりり美術館 延 150 人 ・きりりびよびよ音楽室 延 50 人 ・きりりにんぎょうニュータウン 延 150 人 |
| 計 | 112,859 | | 112,859 | |

■ 子ども文化芸術ふれあい事業（教育委員会）

「スポーツ・文化みよし夢基金」を財源として、平成 28 年度から実施しており、市内の美術館鑑賞など引き続きコロナ禍でも実現可能な取組を行いました。

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|---------------|-----|---------|------|--|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 子ども文化芸術ふれあい事業 | 493 | その他 493 | | <ul style="list-style-type: none"> ○小・中学生芸術鑑賞事業 ・市内美術館等の見学鑑賞 264 人 |
| 計 | 493 | 493 | | |

Ⅰ 歴史・伝統・文化の継承と発展

施策の概要

文化財は、地域の歴史や文化などを正しく理解し、これからのまちづくりを考えるための基礎となる貴重なものです。その文化財を守り、伝えることで、地域に誇りをもって生活できるようになることをめざし、事業に取り組みました。

施策の成果

指定文化財の保護のため、寺町廃寺跡整備事業として、これまでの発掘成果をまとめた報告書を刊行しました。寺町廃寺跡の調査成果が広く公開されることで、その歴史的な魅力が、市内をはじめ全国へと発信されることが期待されます。

辻村寿三郎人形館展示支援事業では、企画展を開催し、県内外からも来館があり、本市ゆかりの作家の芸術を発信しました。

事務事業の実施状況

■ 文化財保護事業（教育委員会）

文化財を後世に残していくために、地域の協力を得ながら、国や県の機関と情報交換を行い、次の文化財について調査しました。広島県天然記念物迦具神社の大イチョウでは、樹木を保護するため、根周りを踏みしめないように対策を行いました。

- ・広島県天然記念物迦具神社の大イチョウ保存事業
- ・広島県史跡三次社倉 状況調査
- ・三次市天然記念物 状況調査

■ 重要文化財幡山家住宅保存修理事業（教育委員会）

幡山家住宅は、江戸時代中期に建てられたと考えられますが、構造などは古い形式で建てられており、また後世の改変も少なく、この地域の特徴を示すということから昭和53年に重要文化財として国の指定を受けています。

灰塚ダム建設に伴い、現在の場所に移築復原修理を行ってから20年以上が経過し、屋根茅葺は全体的に苔が生え、経年による破損が生じるようになったため、令和2年度から屋根葺替や小修理（土間たたきなど）を行い、令和3年度に完了しました。これからも、文化財を保存し後世に継承する保存修理事業を行っていきます。



修復後の幡山家住宅

■ 史跡寺町廃寺跡整備事業（教育委員会）

文化庁や広島県教育委員会文化財課と協議を行いながら、これまでの発掘成果を『史跡寺町廃寺跡 - 推定三谷寺跡第1～8次発掘調査総括報告書 - 』としてまとめました。寺町廃寺跡の魅力の発信や、日本古代史の研究資料としての活用が期待されます。

また、地元の和田小学校で出前講座を行ったほか、佐賀県の吉野ヶ里遺跡記念公園で開催された講演会にて発掘成果を報告するなどの普及活動にも取り組みました。



和田小学校での出前講座

■ 辻村寿三郎人形展示支援事業（教育委員会）

辻村寿三郎人形館の運営をする一般社団法人 寿三郎みよしに対して補助金を交付し、企画展として「王女メディア」「二代目辻村寿三郎襲名記念」が開催されました。

（単位：千円）

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など | |
|-------------------------------------|--------|-------------|------------------|--------|---|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | | |
| 重要文化財幡山 家住宅保存修理 事業 《繰越明許分》 | 42,278 | 国県支出金 起債 | 27,480 13,300 | 1,498 | 令和2年度繰越事業 総事業費 67,801 |
| 史跡寺町廃寺跡 整備事業 | 8,711 | 国県支出金 | 4,355 | 4,356 | 発掘調査報告書の刊行，関係機関 協議 |
| 辻村寿三郎人形 展示支援事業 | 8,000 | | | 8,000 | 王女メディア 123人 二代目辻村寿三郎襲名記念（前 期）670人 二代目辻村寿三郎襲名記念（後 期）1,630人 |
| 計 | 58,989 | | 45,135 | 13,854 | |

オ 学ぶ気持ちを応援する生涯学習の推進

施策の概要

市民の学ぶ気持ちを応援するため、学習機会の提供や、図書館活動充実、老朽化した学習施設の改修工事を行いました。

施策の成果

令和3年度においても、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館時間の短縮やサービスの一部休止を行いながら、図書館を安心して利用いただけるよう、徹底した感染症対策を行い、貸出方法を工夫して、コロナ禍においても実施可能な取組を模索し、市民の学びたい気持ちを支援しました。

事務事業の実施状況

■ 図書館事業（教育委員会）

図書館の蔵書について、各館の容量や市民ニーズを勘案し充実を図りました。また、利用促進のため、近隣市町との広域利用を行いました。子どもの読書活動への支援として、保育所・小学校への定期配達による貸出や、小中学校への職員派遣、見学の受入れを行いました。また、教育委員会主催の「子ども司書養成講座」にも協力しました。加えて、年間を通じて各館で企画した特集展示を行いました。読書通帳 100 冊達成表彰、受験応援しおりの配布や本のメッセージカードコンクール受賞作巡回展の開催などの親しみやすい取組を通して、気軽に立ち寄れる図書館をめざしました。

三次市重要文化財の「往来本」は、一部デジタル化しホームページ上で誰でも閲覧できるよう公開しています。

■ 生涯学習センター等の改修（教育委員会）

布野生涯学習センターを利用しやすい施設にするため、外周フェンスなどのリフレッシュ工事を行い、生涯学習センターとしての機能の充実を図りました。

<図書館利用状況>

| 図書館名 | 個人登録数（人） | | 貸出冊数（冊・点） | | 開館日(日) | 来館者数(人) |
|------------|----------|--------|-----------|---------|--------|---------|
| | 令和2年度末 | 令和3年度末 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和3年度 | 令和3年度 |
| 三次市立図書館 | 34,816 | 35,554 | 148,818 | 180,589 | 312 | 100,325 |
| 三次市立君田図書館 | | | 13,237 | 13,771 | 315 | 3,833 |
| 三次市立布野図書館 | | | 19,576 | 20,606 | 315 | 4,985 |
| 三次市立作木図書館 | | | 12,734 | 14,984 | 315 | 4,847 |
| 三次市立吉舎図書館 | | | 18,611 | 28,245 | 315 | 10,142 |
| 三次市立三良坂図書館 | | | 27,441 | 31,602 | 310 | 8,098 |
| 三次市立三和図書館 | | | 17,125 | 19,463 | 315 | 4,067 |
| 三次市立甲奴図書館 | | | 20,583 | 23,600 | 315 | 3,701 |
| 合計 | 34,816 | 35,554 | 278,125 | 332,860 | - | 139,998 |

<図書資料>

| 図書館名 | 蔵書数（冊・点） | |
|------------|----------|---------|
| | 令和2年度 | 令和3年度 |
| 三次市立図書館 | 156,165 | 156,053 |
| 三次市立君田図書館 | 15,443 | 15,485 |
| 三次市立布野図書館 | 15,220 | 15,274 |
| 三次市立作木図書館 | 19,318 | 19,503 |
| 三次市立吉舎図書館 | 16,793 | 17,093 |
| 三次市立三良坂図書館 | 17,636 | 17,816 |
| 三次市立三和図書館 | 34,724 | 34,506 |
| 三次市立甲奴図書館 | 29,247 | 29,117 |
| 合計 | 304,546 | 304,847 |

（単位：千円）

| 区分 | 事業費 | 財源内訳 | | 成果指標など |
|------------------|---------|----------|---------|--|
| | | 特定財源 | 一般財源 | |
| 図書館事業 | 100,817 | | 100,817 | 自主事業参加者（延人数） 講演会など 40人 本のメッセージカードコンクール 767人 出前講座 496人 |
| 布野生涯学習センター周辺整備事業 | 9,555 | 起債 9,500 | 55 | 外周フェンス等改修工事 |
| 計 | 110,372 | 9,500 | 100,872 | |

カ 国際交流の推進

施策の概要

海外の姉妹・友好都市などとの国際友好親善及び国際協力推進並びに国際的な人材の育成及び市内在住外国人への支援を図るため、一般財団法人三次国際交流協会の運営を支援するとともに、連携し事業を推進しました。

施策の成果

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、市内在住外国人支援を行うとともに、国際理解の促進を図りました。

また、市内高等学校を対象としたグローバル人材育成事業では、オンラインにより実施された地域異文化交流事業に対して補助金を交付し、地域における異文化理解の促進を図りました。

一方、当初予定していた子どもたちの海外友好・交流都市との訪問・受入れなどの交流事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、安全性を考慮し事業中止となりました。

事務事業の実施状況

■ 国際交流推進事業（地域振興部）

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、在住外国人が暮らしやすい環境づくりを推進するため、市内及び近郊の外国人居住者を対象とした生活相談を、通年で週に1回開催しました。言葉や生活習慣の違いから生じる各種相談が年間48件ありました。

また、人道支援、国際貢献の観点から、ウクライナの支援のため、一般財団法人三次国際交流協会と連携し、ウクライナ人道危機救援募金の受け付けを開始しました。

■ （新）グローバル人材育成事業（地域振興部）

令和3年度から市内3つの高等学校を対象に開始した「三次市グローバル人材育成事業補助金」では、日彰館高等学校において、留学生との交流や海外で活躍する三次市出身の方の講話をオンラインで聴講するなど、191人の生徒が参加しました。

（単位：千円）

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|-------------|-----|---------|------|-------------------------|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| グローバル人材育成事業 | 18 | | 18 | 補助金交付 1件 高校生参加者 191人 |
| 計 | 18 | | 18 | |

(4) 男女共同参画・平和・人権 ～みんなが協力してつくる、人にやさしく住みよいまち～

ア 男女がともに活躍できる環境の充実

施策の概要

「三次市男女共同参画基本計画(第4次)～一人ひとりがしあわせな社会をめざして～」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けて、市民を対象とした啓発事業の実施と女性保護対策の充実などに取り組みました。あわせて、女性の活躍推進のため、セミナーや啓発事業を行い、子育てしながら働きやすい環境づくりへ向けた取組を行いました。

施策の成果

三次市男女共同参画基本計画(第4次)に基づき、男女共同参画の理解の浸透と女性活躍の機運醸成を図るとともに、新型コロナウイルス感染拡大により経済的に影響を受けた女性への緊急支援として、生理用品の無償配布を行い、女性に寄り添った支援策を展開しました。

事務事業の実施状況

■ 男女共同参画推進事業(地域振興部)

令和3年3月に策定した「三次市男女共同参画基本計画(第4次)～一人ひとりがしあわせな社会をめざして～」の基本的な考え方や計画の推進について周知を図るため、男女共同参画週間にあわせ、市広報紙で特集を組んだほか、市ホームページ、市役所ほっとニュースなどを活用して啓発に取り組みました。

また、家庭、地域、職場などのあらゆる場における男女共同参画の理解の浸透と女性活躍推進を図る必要があることから、男女共同参画推進講演会講師派遣事業の対象に新たに住民自治組織を加え、地域における男女共同参画の推進に努めました。あわせて、三次市女性連合会の活動を支援し、講演会などを通して男女共同参画を推進しました。

国際女性デーにおける男女共同参画推進講演会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、事業を中止せざるを得ませんでした。ジェンダー平等を考える機会として市長メッセージを発信し、男女共同参画への理解の促進に努めました。

■ (新) 生理用品無償配布事業(地域振興部)

新型コロナウイルス感染拡大の影響などにより、経済的に生理用品の購入が難しい方への緊急支援として、生理用品の無償配布を実施しました。本事業の実施に際し、三次商工会議所女性会からご寄附いただいた生理用品を活用させていただき、712セット配布しました。配布する袋の中には、各種相談窓口を掲載したチラシを同封し、経済的な支援を行うとともに、相談支援先の周知を図りました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|------------|-------|---------|-------|---|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 男女共同参画推進事業 | 1,732 | | 1,732 | 男女共同参画審議会 1回開催 男女共同参画推進講演会講師派遣 1団体 三次市女性連合会「女性のつどい」 参加者 90人 |
| 生理用品無償配布事業 | 96 | | 96 | 生理用品配布 712セット |
| 計 | 1,828 | | 1,828 | |

イ 平和を願う思いの継承と市民意識の高揚

施策の概要

被爆者や戦争体験者の高齢化に伴い、原爆と戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。そうした中で、戦争体験の継承と平和の尊さの次世代への継承、そして、恒久平和の願いを市民へ呼びかける事業を行いました。本市では、市民が身近なことから平和に関心を持ち、考えられるよう、広島東洋カープの協力を得て、「平和の灯ろうコンテスト」にカープ球団選手から平和メッセージをいただき展示を行いました。

施策の成果

戦争の悲惨さと、原爆の非人道性を語り継ぎ、恒久平和の願いを次世代に伝えるため、「平和のつどい」、「平和の灯ろうコンテスト」、「平和折り鶴募集」などの平和推進事業を実施し、多くの市民が取り組むことで、恒久平和の願いの浸透を図ることができました。さらに、核実験への抗議活動や、米軍の低空飛行訓練に対する中止要請は、世界恒久平和を願う市民メッセージとして発信しています。平和を願う思いが継承されるよう、啓発活動を通じて、市民一人ひとりの意識の高揚に引き続き取り組みます。

事務事業の実施状況

■ 平和推進事業（地域振興部）

広島市の平和記念公園に手向けられた折り鶴を活用する「折り鶴に託された思いを昇華させる取組」として、平和の願いが込められた折り鶴を活用した「平和の灯ろうコンテスト」を行い、市内の福祉施設や小中学校の児童・生徒などから383点の応募がありました。広島東洋カープの選手からは、灯ろう用紙に平和メッセージをいただき、応募いただいた全ての作品とともに三良坂平和美術館に展示を行いました。

また、本市も加盟している「平和首長会議」などと連携を取りながら、情報の収集を行い、核兵器廃絶を訴えました。平和への想いを込めた折り鶴の募集には、市民から26,410羽が寄せられ、恒久平和への願いとともに広島平和記念公園の「原爆の子の像」に手向けました。

広島・長崎に原爆が投下された8月6日、9日には、市民に原爆犠牲者の追悼の黙とうを呼びかけ、庁舎をはじめとした公共施設において半旗の掲揚を行いました。

■ 平和祈念事業の開催（地域振興部、三良坂支所）

市民一人ひとりが平和について考え、次世代にその尊さを伝える契機の一つとして「平和のつどい MIYOSHI2021」を三良坂平和公園で開催しました。令和3年度は、実施方法を見直して「平和の灯ろうコンテスト」の表彰と、平和への想いをしたためた「平和への想い（一筆箋）」作品の表彰を行いました。会場に設置された約800基の灯ろうへ、広島市の平和記念公園から採火された平和の灯が灯され、本市から恒久平和への願いを発信しました。



平和のつどい MIYOSHI 2021

■ 関連事業への取組（地域振興部）

市民から寄せられた米軍機低空飛行訓練目撃情報の件数は、延べ9日、19件でした。本市では令和2年度より、目撃件数は減少したものの、県内目撃情報は、令和2年度と比較して大幅に増加しています。基地周辺や訓練空域下では、米軍岩国基地への空母艦載機移転前の平成29年度より大幅に増加傾向であり、今後も広島県や「米軍機による低空飛行の騒音被害に関する関係自治体の協議会（廿日市市・北広島町・安芸太田町・三次市）」と連携を図り、注視していく必要があります。

北方領土返還運動については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内ショッピングセンターでの街頭啓発活動を自粛し、市役所本庁でのポスターの掲示やチラシにより啓発を行いました。

■ （新）ウクライナ人道支援の取組（地域振興部）

ロシアによるウクライナ侵攻及び核兵器使用を示唆する発言に対し、令和4年3月2日付でロシア連邦大統領宛に、三次市長として抗議文を送付し、即時の侵攻停止と部隊の撤収、平和的解決を求めました。

また、ウクライナへの人道支援として、ウクライナ避難民の受け入れを表明するとともに、ウクライナ人道危機救援募金箱を設置し支援を呼びかけました。さらに、ウクライナ避難民の受け入れに迅速に対応し支援につなげて行くため、市内企業・団体などへ協力を呼びかけ、協力支援の受け入れを開始しました。

（単位：千円）

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|--------|-----|---------|---------|---|
| | | 特 定 財 源 | 一 般 財 源 | |
| 平和推進事業 | 35 | | 35 | 平和の灯ろうコンテスト 応募数 383点 三良坂平和美術館 平和の灯ろうコンテスト作品展 7月9日から7月25日 折り鶴募集 26,410羽 |
| 平和祈念事業 | 367 | | 367 | 平和のつどい MIYOSHI2021 (8月6日 / 三良坂平和公園) 参加者 約200人 |
| 計 | 402 | | 402 | |

ウ 「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発

施策の概要

広島法務局三次支局，三次人権擁護委員協議会などと連携を図りながら，互いの違いを共に認め合い，支え合う，「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発を行い，人権尊重のまちづくりを進めました。

施策の成果

「人権の花」運動や「ひと・かがやき映画上映会」を通じて，お互いを思いやる心や命の大切さを感じていただくことができました。

小中学生による人権ハート絵かがやきメッセージや書などの作品制作も学校単位で取組が行われ，展示の場を提供することで，人権尊重意識の普及高揚を図りました。

事務事業の実施状況

■ 「ひと・かがやき映画上映会」（地域振興部）

例年，人権週間にあわせて実施している「ひと・かがやきフェスタ」は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送り，その代替イベントとして，三次人権擁護委員協議会及び三次地区保護司会と連携し，人権週間にあわせて，12月4日に「ひと・かがやき映画上映会」を開催しました。

会場の人権啓発パネル展示に加え，映画上映前には，絵本朗読などによる人権擁護委員活動紹介や社会を明るくする運動作文表彰を行い，地域社会における人権について考えていただく機会となりました。

映画上映会では，映画「おいしい家族」を通して，人権尊重の理念について理解を深め，互いに認め合い，ともに生きるひとづくり・まちづくりについて考えていただきました。

個性を受け入れることや自分らしく生きることの大切さが感じられる内容であり，「人権」を身近に感じていただき，効果的な啓発を行うことができました。

■ 人権ハート絵かがやきメッセージ（地域振興部）

市内小中学校の児童・生徒が人権への思いを表現した「人権ハート絵かがやきメッセージ」を市内ショッピングセンター及びみよしまちづくりセンターで展示しました。

■ 「人権の花」運動（地域振興部）

植物を育てることで，子どもの情操をより豊かにし，命の大切さや相手への思いやりという人権を尊ぶ気持ちを育むことを目的に，広島法務局三次支局及び三次人権擁護委員協議会との共催で，三和小学校，清河小学校，八次小学校の3校にヒヤシンス栽培セットを贈呈しました。

人権の花贈呈式において，児童に対して，人権イメージキャラクターを用いて「人権」について呼びかけを行うことで，人権に対する関心を高め，理解を深めることができました。

■ みよし日本語教室（地域振興部）

市内在住の外国人が日常生活を営むうえで必要となる日本語能力を習得できるよう，「みよし日本語教室」を開催しました。日本語学習支援スタッフ11人の協力により，毎週火曜日と木曜日に開催し，外国人受講生22人（令和3年度末現在）の学習を支援しました。

また、日本語学習支援スタッフのレベルアップに力を入れるため、日本語学習支援スタッフ養成講座を実施しました。

引き続き、誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めます。

■ 各種相談事業の充実（市民部、地域振興部）

外国人が日常生活や地域、職場において各々の個性や能力を発揮しながら活躍できる社会づくりを推進するため、一般財団法人三次国際交流協会の協力を得ながら、外国人生活相談を毎週1回開設しました。外国人住民へのサービス向上のため、多言語翻訳アプリ「Voice Biz（ボイスビズ）」（音声翻訳 11 言語、テキスト翻訳 30 言語の中から選択した言語に自動で翻訳し、タブレット端末に音声やテキストを出力する AI アプリ）を活用し、窓口での諸手続きや相談などに対応しました。

また、弁護士による「市民無料法律相談」を毎月2回開設したほか、消費生活相談や人権相談など、市民が安心して相談できる体制の充実に努めました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言期間中においては、感染拡大を防止するため対面から電話相談に変更したうえで、市民の相談に継続して対応を行いました。

■ 女性保護対策事業（子育て支援部）

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）に基づく暴力被害女性の保護を図るため、相談員を配置して対応しました。婦人相談では、DV（ドメスティック・バイオレンス）などの深刻な問題のほか、広く女性が抱える諸問題の解決のため、相談員による面談、電話相談を行いました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | 成果指標など |
|------------------|-------|-------------|-------|---|
| | | 特 定 財 源 | 一般財源 | |
| 「ひと・かがやき映画上映会」 | 165 | | 165 | 開催日：12月4日 場 所：みよしまちづくりセンター ペペらホール 参加者数：87人 |
| 人権ハート絵かがやきメッセージ | 33 | | 33 | 人権ハート絵展示数：182点 |
| 「人権の花」運動 | 124 | 国県支出金 66 | 58 | 【実施校】市内小学校 3校 参加児童数 266人 |
| みよし日本語教室 | 412 | | 412 | 開催日：毎週火曜日・木曜日 日本語学習支援スタッフ 11人 日本語学習支援養成講座 レベルアップ講座受講者 8人 |
| 各種相談事業 | 4,366 | 国県支出金 910 | 3,456 | 無料法律相談（月2回） 114件 消費生活相談 182件 外国人生活相談（週1回） 48件 生活相談 42件 |
| 【再掲】 女性保護対策事業 | 2,628 | 国県支出金 1,266 | 1,362 | 婦人相談件数 121件（実人数 44人） （うち DV 相談 33件 実人数 16人） |
| 計 | 7,728 | 2,242 | 5,486 | |

